

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立津高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	1 日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒 2 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒
	ありたい教職員の姿	1 子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2 目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれた組織風土の中で、自らの専門性を高め、「チーム」として協力し合って教育活動に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> ・質が高く、能動的に取り組むことができる授業 ・安全・安心で充実した学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・総合的な学力の伸長と進路希望の実現 <保護者> ・子どもの学力と人間力の伸長、進路希望の実現に向けた教育活動の充実 ・安全・安心な学習環境 <地域社会> ・地域で信頼される「公立進学校」として、将来の社会を支える市民を育成 ・地域の活性化につながる教育活動	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者> ・安全・安心な学校生活・学習環境 ・子どもの人間的成長と進路希望実現 <地域社会> 1 小中学校 ・卒業生の学力および人間力の伸長 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 ・リーダーとしての資質や態度の育成 ・地域活動への生徒の積極的な参加 3 大学、研究機関等 ・基礎的研究への理解と興味・関心の喚起 ・人的、物的な教育資源の活用 4 卒業生(同窓会) ・「自主・自律」の伝統の継承 ・生徒が高い志(進路希望)を実現	<保護者> ・本校教育方針への理解と協力 ・相互の信頼に基づく意思疎通 <地域社会> 1 小中学校 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 ・市民性、社会性を育む学習機会の提供 ・学校外の実社会を体験できる機会の提供 3 大学、研究機関等 ・専門的な研究活動の機会や場の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供 4 卒業生(同窓会) ・「自校教育」の機会の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供

(3)前年度の学校関係者評価など		○探究活動の成果発表会では、生徒の主体的な姿を見ることができた。しっかりとPRするとともに、生徒の質問力が向上するよう取り組まれない。 ○一人一台学習端末の利用促進のためにも、学習の振り返りをさせるなど毎時間必然的に触れさせる仕組みを導入するとともに、さらなる教員のスキルアップに期待する。 ○教員の丁寧な面談の取組が、進路指導上の効果を高めている。より気軽に相談できる雰囲気を作るとともに、聞き手として教員のスキルアップを図られたい。 ○津高校ならではの活性化・魅力化策を検討すべきである。
(4)現状と課題	教育活動	○「自主・自律」の精神を受け継いでいくためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まり、高い志の実現に向けて効果的な学習を「自走」することができるよう、学校全体で組織的に取り組んでいく必要がある。 ○「深い学び」を実現するために、一人一台端末やICT機器を効果的に活用して教育活動を進めていくことが求められる。 ○新教育課程をふまえ、授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについて教科横断的な視点から進捗状況を把握しながら進める必要がある。 ○生徒の資質を多面的、多角的に把握し、人間力の伸長につながる指導ができるよう、研修等を通じて一層の力量の向上に努める必要がある。
	学校運営等	○令和4年度に刷新した学校のホームページを活用し、本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、取り組み内容が中学生や保護者だけでなく県内全体に広く伝わるよう、効果的に情報発信をしていく必要がある。 ○一人一台端末やICT機器を授業において効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効率的に取り入れるなど、教職員の負担にならないように進めていく必要がある。 ○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、適切に情報共有を図り、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。 ○スクールサポートスタッフ(SSS)の活用により、時間外労働時間縮減の取組は一定進んでいるが、会議時間の短縮や定時退校日の設定等に加えて、自動採点システムを全職員が利用するなどICTを効果的に活用することにより、一層の業務削減に取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		1. 学習活動はもとより、スポーツ活動・文化活動等、あらゆる側面で充実した「文武両道」の高校生活を通じて、生徒一人ひとりの「高い志」「自主・自律の精神」を醸成し、「人間力」を高める。 2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進、ICTを活用した取組等、授業を中心とした教科指導を充実し、「必要な力が生徒に育まれているか」という観点を大切にして、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導を充実することにより、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 3. 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、倫理観、規範意識などを育む教育の充実に努めるとともに、生徒主体の運営による学校行事や生徒会における自治的活動やそれらを踏まえた主権者教育を通じて、生徒の豊かな人格形成や人間関係を構築する力の育成に取り組む。 4. 第IV期を迎えたSSH事業を全校体制で推進し、探究活動を核としてすべての教育活動につなげることで、生徒に教養の獲得を促すとともに「創造性」「国際性」「課題解決能力」を育み、国際社会で活躍し、世界を牽引する時代の科学技術人材を育成する。
----------------------------------	--	--

	5. 姉妹校(台湾)との交流を通じて、生徒が国際的な視野を広め、探究活動の深化をはかり、英語コミュニケーション能力の向上を図ることができるよう、相互訪問や共同研究の取組を進める。
学校運営等	1. 教職員の資質能力の向上に取り組むとともに、教職員同士が教え合い、協力し合うことによって、さまざまな課題に「チーム」として取り組み、生徒の「自主・自律」をサポートする、組織力ある学校づくりを行う。 2. 教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を強化し、学校の取組を積極的に発信することを通して、学校力を高める。 3. 業務の精選、総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が情熱とやりがいを持って生徒に向き合い、健康で働くことのできる環境づくりを行う。 4. 学校図書館(津高図書館)は、これまでの「読書センター」「学習センター」としての役割に加え、授業での図書館活用や、探究的な学びの材料や機会の提供にさらに注力することによる「探究センター」としての役割、また部活動等との連携による「文化・情報センター」としての役割が高まるよう、運営の一層の活性化をはかる。

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	1. 「自主・自律」を基本とする本校の校風や文化に対し興味を抱く生徒 2. 「文武両道」を実践し、自らを鍛えようという気持ちを持つ生徒 3. 学校生活における様々な取組において、意欲と関心を持って主体的に取り組める生徒 4. 自らの可能性を信じ、失敗を恐れず挑戦しようという気持ちを持つ生徒
---	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的学習者の育成と確かな学力の向上	◇質の高い授業づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等に組織的に取り組み、質の高い授業づくりを目指します。 【活動指標】 ・授業アンケート(年2回)の実施 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告の実施(各教科年2回) ・研究授業の実施(各教科年1回) ・授業公開Weekの実施(年2回) ・ノーチャイムWeekの実施(年2回) 【成果指標】 ・授業アンケート②～⑤の項目が高い水準で実施されていることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に不可欠であることから、これらの項目において「はい」と答える生徒の割合が平均で90%以上 項目② あなたはこの授業において「新たに身につけるべき力」や「努力すべきこと」を認識して学習に取り組むことができましたか。 項目③ あなたにとって先生の説明や問い、板書やスライド(パワポ)は伝わりやすいものになっていますか。 項目④ 先生はあなたが主体的・能動的に取り組む時間を授業中に確保していますか。 項目⑤ 先生から授業外で自ら行う学び(家庭学習)についての提案や助言はありますか。 ◇主体的な学習習慣の確立 ・初期指導を充実させ、主体的に学ぶという意識付けをしつつ、徐々に手を離していくことで、生徒の自律を促します。 【活動指標】 ・年度初めの1・2週間程度を「ガイダンス週間」と位置づけ、全ての科目でガイダンスを実施。 ・1学年においては一人一台端末の活用のための土台を形成するための「Chrome ガイダンス」を実施 ・充実した類型科目選択になるように情報提供等の支援を実施 【成果指標】 ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組んでいるか」について、生徒の回答の①「できている」および②「だいたいできている」の割合の合計	・授業アンケート(年2回)を実施しました。 前期は②～⑤の項目の平均77.0%で未達でした。 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を各教科年2回実施してHPに公開しました。 ・研究授業を各教科1回実施しました。 ・授業公開Weekを年2回実施しました。 ・ノーチャイムWeekは年1回の実施でした。 ・年度初めの1・2週間程度を「ガイダンス週間」と位置づけ、全ての科目でガイダンスを実施しました。来年度は国数英+iPadに特化した初期指導を実施し、他教科についてはこれまで同様授業内で実施します。 ・1学年においては一人一台端末の活用のための土台を形成するための「Chrome ガイダンス」を実施しました。回線の混雑により全体での一斉実施は今年度で最後になります。 ・充実した類型科目選択になるように情報提供等の支援を実施しました。具体的には教科書の提示や各教科の授業の様子やアドバイスをまとめて提供しました。 ・R6 学校生活についてのアンケートの結果。	◎

	の値が 80%以上、かつ①の値が 33%以上 ・今年度は前期の授業アンケートでも同様の調査を実施かつその理由についても調査し、改善につなげる。 【昨年度実績】 1学年(現2学年)① 20% ② 50% ①+② 70% 2学年(現3学年)① 19% ② 56% ①+② 75%	1学年① 18.5% ② 56.6% ①+② 75.1%(前年比 5.1%増) 2学年① 29% ② 53.9% ①+② 82.9%(前年比 7.9%増)	
改善課題			
授業アンケートの項目⑤「先生から授業外で自ら行う学び(家庭学習)についての提案や助言はありますか。」へ「はい」と回答した割合が 66.7%で全項目の中で最も低かったため、来年度は改善する必要があります。 初期指導は英国数+iPad で特編を組み、特に充実させていきます。 各授業において探究的な取組を実施すること及びそれをどのように評価するかについては、今後も議論していきます。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導	・生徒が必要な情報を自ら収集・分析・判断し、実際の行動に移せるような資質を養います。 ・面談等を通して進路希望を把握した上で、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の進路希望の実現につなげます。また、適切な進路情報を提供し、受験を支援します。 【活動指標】 ・生徒が将来について考えられる機会を提供(生徒参加企画等) ・日々の学習と社会の接点が意識できるような活動を提供することによる社会貢献の意識の向上(授業内活動・生徒参加企画等) ・生徒個別面談、保護者面談の実施(面談週間の設置) 【成果指標】 ・第一進路希望実現率等60%以上	・放課後の活動や長期休暇、LHR などを活用し、進路について考える機会を各学年で実施できました。また、本年度は、新しい企画(神島診療所見学、市役所職員との意見交換、高校生県議会参加など。)も実施でき、生徒にとって将来を考える機会が増えました。 ・11月時点の志望校(国公立、私立含む)に 67.9%の生徒が出願しました。	
改善課題			
・進路希望醸成につながる様々な体験、企画を実現し、持続可能なものにするための外部との協力体制の構築、強化。 ・進路希望の実現につながる基礎学力の底上げ。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育	1 人権を重んじ、自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2 生徒の自主性を大切にした人権学習を展開します。 【活動指標】 ・人権学習 LHR の実施(1年生6回、2年生4回、3年生3回) ・人権アンケートの実施(1回) 【成果指標】 ・各学年で行う人権アンケート結果(満足度で、大変良かった・良かった 合わせて 9 割以上)	・アンケートで 96%の生徒がこの 1 年間の人権学習の満足度で「大変よかった・よかった」と評価しました。	

改善課題			
・人権LHRにおいては、様々な人権問題を、身近な自分に関係ある問題として捉えることのできる課題設定や授業内容をさらに考えて、生徒の人権意識を更に高めていく必要があります。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立を目指します。 2 社会生活におけるマナーの向上を目指します。 【活動指標】 ・交通安全・登校指導週間(4回)、完全下校巡視、校内巡視、情報モラル講座(1回)の実施 ・生徒会活動、HR活動、部活動、課外活動の奨励 ・各種集会での互いの人格を尊重し、他人を思いやる大切さにかかる講話等の実施(2回) 【成果指標】 ・部活動への加入率(3年生5月で90%以上の継続※兼部を除く)	・登下校指導を4回実施しました。また、毎朝、校門での挨拶運動を行いました。 ・生徒会行事や部活動を通じて、主体的にリーダーシップのとれる生徒の育成を目指しました。 ・互いの人格を尊重するとともに、モラル等に関して意識づけをすることをねらいとし、集会等での講話(3回)を実施しました。	
改善課題			
・より効果的な関りとなるよう、生徒一人ひとりに応じたアプローチの仕方を工夫する必要があります。 ・SNS 使用に関するモラルやマナーの向上が必要です。 ・登下校時の交通ルールやマナーの向上が必要です。特に自転車のヘルメット着用率の向上が必要です。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
国際教育	◇SSH事業等を活用した国際交流活動の推進 ・海外の高校生や大学生との交流を通じて、国際的な視野の育成を図ります。 【活動指標】 ・台湾の高校生とのオンライン交流(10回以上)、相互訪問(1回ずつ)の実施 ・生徒のニーズを踏まえた新たな交流先の開拓(1か所以上) ◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進 ・県教育委員会主催の海外研修等へ参加の推奨 【活動指標】 ・国際交流活動参加生徒の、のべ人数(320人以上)	・台湾中山高級中學の生徒達との交流をオンラインで8回実施しました。参加生徒数はのべ166名でした。 ・7月に24名の生徒が中山高級中學を訪問しました。(台風により、3日間の休校措置に。) ・1月に中山高級中學の生徒20名が来校し、本校1・2年生全員と交流しました。 ・外国研究サークルが、ブータンの高校生とオンラインで交流しました。(11月) ・ベトナムから7名の大学生が来校し、交流しました。(11月) ・タイから61名の高校生が来校し、交流しました。(5月) ・令和7年度の実施に向けて、企業の協力によるベトナム研修プログラムを開拓しました。	

改善課題			
・海外渡航時の台風等の災害における連絡体制の確立が必要です。 ・姉妹校との相互交流を持続可能な取組にするためのホームスティ先や研修先の確保など組織的な工夫が必要です。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
文化活動の推進	◇読書生活指導の充実 ・本校図書館は、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努めるとともに、文化活動を通じて文化的教養を育成します。また、これらの活動を自校だけのものではなく、他校の図書館も視野に入れた活動にしていきます。 【活動指標、成果指標】 ・読書環境の整備、利用の促進(貸出 9,000 冊、生徒貸出率 50%) ・分掌・学年・教科等との連携、およびSSH、LHR、授業等への支援 ・読書感想文コンクール、読書感想画コンクールへの応募、及び上位入賞 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた、文化・学習にかかる情報収集と情報発信 ・図書館文化講演会、ビブリオバトル、ギャラリー展示、青空図書館、図書館Live、車座トーク、図書館講座、黒板本棚等生徒参加企画の実施 ◇芸術鑑賞の奨励 ・PTA主催の芸術鑑賞補助事業等を実施し、保護者への参加を積極的に促します。 【活動指標】 ・芸術鑑賞事業等への保護者の参加人数 200人	貸出冊数 7,976 冊 生徒貸出率 39.7% (2 月末現在) ・主権者教育モデル校の取組を導入し、その予算を活用し、図書館行事として以下を実施しました。 青空図書館、図書館科学講座、古典講座、文化講演会、図書館ライブ、車座トーク、校内ビブリオバトル大会など、参加人数 872 人(2 月末時点)。 中でも車座トークについては、今年度 21 回を数えました。 ・第 70 回青少年読書感想文コンクールの結果〔三重県審査〕 優秀賞1名、優良賞1名 ・第 36 回読書感想画コンクールの結果〔三重県審査〕 最優秀賞 2 名 ・第11回全国高校生ビブリオバトル決勝大会 三重県代表 ・三重県総合文化センター大ホールにて芸術鑑賞会(演劇)を実施しました。全校生徒に加え、約280名の保護者の参加がありました。	
改善課題			
・令和7年度より、新たな「探究推進部」と「図書部」を一体化し、「探究図書部」となることにより、探究に必要な読書活動を促し、支える必要があります。 ・図書館の利用促進については、ギャラリーの使い方も含めた図書館の活用方法を更に工夫し、図書館行事による来館者数の増加とともに貸出率のアップを目指します。 ・読書感想文コンクールについては、本好きの生徒を増やすとともに、実際に書いてみる大切な機会と捉え、意識の高揚を図ります。 ・芸術鑑賞会については、生徒が日頃体験できない芸術作品に触れることのできる貴重な機会として捉え、有意義な内容選定を行っていきます。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
健康教育	◇保健管理と保健教育、健康相談 1 心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。 2 健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。 3 学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。 【活動指標】 ・保健講話(各学年1回) ・「保健だより」の発行(年10回) ◇救急時の対応 1 安全に対する意識を高める指導を行います。 2 救急体制の充実を図ります。 【活動指標】 ・AED 取扱いにかかる職員研修の実施(1回) ◇熱中症予防への取組 熱中症への対策に留意した教育活動を実施します。 【活動指標】 ・ WBGT 計による測定の徹底 ・ 体育祭の室内での実施(6 月) ・ 武道場への空調設備の導入 ◇感染症予防への取組 1 感染症の早期探知及び生徒健康状況の把握を行います。(欠席状況調べ、健康観察等) 2 感染症を未然に防ぐ取組を進めます。 【活動指標】 ・CO2 モニターやサーキュレーターの設置 ・感染症に関する保健指導等の実施 ◇教育相談 1 全ての教育活動をととして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。 2 生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。 3 保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。 【活動指標】 ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年 24 回以上) ・「教育相談だより」の発行(年3回以上)	・保健講話:1年生「性教育」、2年生「薬物乱用防止教室」、3年生「受験期の健康管理」を実施しました。 ・「保健だより」は定期号を10回、レクリエーション大会特別号(全学年)、修学旅行前特別号(2年生)を1回、受験準備号(3年生)を1回発行しました。 ・消防署職員による救急救命講習を全教職員対象に行いました。(8月) ・体育科と連携し、体育授業時のWBGT測定を行いました(5月上旬～9月下旬)。WBGT値が31を超えた際には運動中止の措置を取りました。 ・CO2 モニター、手指消毒液自動噴霧器、サーキュレーターの設置等、感染症対策を継続して実施しました。 ・スクールカウンセラーによる教育相談は、32回実施しました。 ・発達障がい支援員による面談は1回実施しました。 ・教育相談だよりは4月と8月、1月の計3回発行しました。	
改善課題			
・保健室への来室生徒数が増加傾向にあります。学年団とも情報共有を密に行い、原因の分析を図ります。 ・体育祭は屋内運動施設で開催しましたが、7月上旬のレクリエーション大会は屋外開催予定でした。雨天のため、結果として屋内競技のみの開催となりましたが、熱中症予防の観点から、来年度以降の開催時期と場所の検討が必要です。 ・継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、危機発生時の救急体制について教職員間での共有をより強化していく必要があります。			

・教育相談については、担任、保護者、学年主任、養護教諭、管理職、関係する専門家と密に連携をとりながら、生徒の支援を行いました。自ら相談に訪れる生徒は少ないので、相談しやすい環境を作り、担任や学年主任、養護教諭と情報を共有し、丁寧な支援を行っていく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
防災教育	◇防災学習の充実 1 避難経路、避難方法を年度早期において確認します。 2 実際の場面を想定した避難訓練を実施します。 3 「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。 【活動指標】 ・防災訓練、防災学習の実施(年各1～2回) ・学校防災ボランティア事業への生徒参加(3名以上)	・校舎内からの避難経路などについて生徒、教職員で確認、共有しました。(4月) ・授業中を想定し、校舎外へ一斉避難する訓練および屋上へ避難する訓練、「防災ノート」を用いた防災意識を高める学習を行いました。(10月) ・学校防災ボランティア事業に3名の生徒が参加し、能登で活動を行いました。	

改善課題

- ・日常的に防災意識を高める学習活動を継続的に行う必要があります。
- ・授業中を想定したことで、より実践的な訓練ができましたが、避難経路の設定、非常時を想定した訓練方法など、さらに検討する必要があります。
- ・1年生が早く避難経路を知るために、避難訓練の実施時期を早めることを検討します。

項目	取組内容・指標	結果	備考
探究的活動の推進とSSH事業への取組	◇世界を牽引する次代の科学技術人材の育成を目的とした、「探究活動を核とし、すべての教育活動へつなげる科学教育システム」を確立します 1 探究的な学びによる生徒の資質・能力の変容の検証による新たな学びの確立に取り組みます。 2 外部機関(大学／企業／海外)等との連携による専門性の高い学びの実現に取り組みます。 3 教育資源の還元による中核的拠点校としての活動を充実します。 【活動指標】 ・「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「SS博学科学」、「試行的な課題研究」の実施 ・「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」の実施、「SSH児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・「SS探究活動Ⅲ」において、2年次の研究成果の論文作成、英文要旨作成、学会やコンテストで発表 ・「SSH台湾研修」において、オンライン交流および相互訪問の実施 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」の実施 ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「三重県高校生学会」、中学生向け探究活動体験講座「探究道場」、「小中学生向け科学講座」等の実施 ・津高SSHホームページにおいて活動報告	・「SS探究活動Ⅰ」において、すべての1年生が「リベラルアーツ」、「SS博学科学」、「試行的な課題研究」を実施しました。 ・「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」を実施しました。すべての2年生が「SSH児童・生徒研究発表会」で研究成果を発表しました。 ・「SS探究活動Ⅲ」において、すべての3年生が、2年次の研究成果の論文を作成しました。一部の生徒が学会やコンテストで発表しました。 ・「SSH台湾研修」において、オンライン交流および相互訪問を実施しました。 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」を実施	

		しました。 ・「みえ探究フォーラム」、 「国際科学技術コンテスト 強化講座」、「科学系クラ ブ合同交流会」、「探究道 場」を実施しました。 ・津高SSHホームページに おいて活動報告をしまし た。	
改善課題			
・目指す学校の姿、グラデュエーション・ポリシーを実現するために、「SS 探究活動」の3年間のグランドデザインについて、教職員と生徒と共通認識をはかり、より実行性を高めるとともに、育みたい資質・能力とそれらの育成に対応するコンテンツの充実が求められます。 ・校外での体験的な活動への参加者を増やすためのさらなる工夫・仕掛けや大学・企業・OB等との協力体制の強化が必要です。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
環境・美化教育	◇環境美化、公共性の向上に向けた取組 【活動指標・成果指標】 ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック(年3回) ・美化委員によるゴミ分別のチェック(学校環境週間・大掃除時) ・環境美化改善へ、生徒のアイデアを取り入れた取組の実施 ◇環境問題に対する意識の醸成 【活動指標】 ・「環境週間」を設け、その一日を「学校環境デー」として美化委員と生徒ボランティアで美化活動を実施	・美化委員会を6回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック等を行いました。 ・学校環境週間や大掃除の際に、ゴミの分別チェックを美化委員が行いました。 ・学校環境デーを5月16日に実施し、学校周辺とグラウンドの除草作業を行いました。美化委員24名、ボランティア生徒約150名、教職員5名と合計200人近い参加者で活動しました。	
改善課題			
・ゴミの分別は、地域によって分別方法が異なるため、分別が紛らわしいゴミの校内でのルールについては、生徒・教職員への周知の徹底が必要です。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組と教育課程の研究・改善	◇授業力向上の取組 ・授業研究や授業公開、授業評価等をとおして、授業力の向上を図ります。また、ICTを活用することによって教員の業務負担を軽減し、取組に必要な時間を生み出します。 【活動指標】 ・講座ごとの授業回数を定期考査ごとにそろえ、かつ年度初めの各回数を提示することで見通しを持った授業展開を促進 ・授業アンケートの実施(年2回) ・毎授業時間後に生徒による即時フィードバックを行う「授業フィードバック Week」の実施(年2回) ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を実施し、HPで発信(各教科年2回) ・研究授業の実施(各教科年1回) ・授業公開 Week の実施(年2回) ・保護者対象の授業公開の実施 ・学習指導委員会にて授業進捗を調査・把握(年2回) ・ICTの活用についてのサポートおよび業務の自動化とその提案を実施 ・Classroomを各教科の情報共有の場として活用 【成果指標】 ・各教科において、授業アンケートの結果を、授業改善のための資料として活用し、成果を検証 ◇「カリキュラム・マネジメント」の視点から、日々の教育活動について組織的に改善をおこない、また、探究的な学びの指導方法や評価方法についての研究を行う。 【活動指標】 ・学習指導委員会を中心に、すべての授業における探究的な学びの実践と評価方法を検討 ・2期制のメリットを最大化する単位制導入の視点のもと、令和8年度よりの実施を目指し新たなカリキュラムを開発・提案 ・津高校としての観点別評価の形を作成・発信	・講座ごとの授業回数を定期考査ごとにそろえ、かつ年度初めの各回数を提示することで見通しを持った授業展開を促進しました。 ・授業アンケートを年2回実施しました。(前述) ・毎授業時間後に生徒による即時フィードバックを行う「授業フィードバック Week」を年2回実施しました。 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を実施し、HPで発信する活動を年2回実施しました。 ・各教科で研究授業を年1回実施しました。 ・年2回授業公開 Week を実施しました。 ・保護者対象の授業公開を実施しました。 ・学習指導委員会にて授業進捗を調査・把握し、授業進捗保証を行いました。 ・ICTの活用についてのサポートおよび業務の自動化とその提案を実施しました。 ・Classroomを整理し、情報がまとまって生徒に届くようにしました。	◎
改善課題			
・令和8年度入学生からの単位制導入に向けて、カリキュラムの内容、教務内規、時間割のシミュレーション、観点別評価など課題が山積しており、早急に準備していく必要がある。 ・ICTの活用で便利になると同時にセキュリティの重要性が増しており、定期的に重要情報の整理が必要である。 ・授業アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」を示す項目での達成目標(90%以上)が未達(77%)であることから、各教科で改善の検討を進めるとともに互見授業による相互コーチングを高める必要がある。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
・進路指導に関する情報共有 ・大学入試問題の分析や校内外模試を活用することによる教員の資質向上	◇進路指導に関する情報共有 ・生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導体制の構築 【活動指標】 ・大学入試の変更等にかかる情報提供 ・新課程による2025年度入試についての情報提供 ・校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会の実施 ・各大学・各予備校等の分析会・大学説明会の情報発信 ◇教員の資質向上 ・校内外模試の作問・分析を通して教員の資質向上 【活動指標】 ・各予備校等の分析会・入試問題研究会の情報発信 ・校内模試の実施による作問・分析力の向上	・各大学、予備校が発表している情報を整理し、学年団または全職員に随時伝えることができました。 ・新課程への対応(特に情報Ⅰ)が、適切にできました。 ・校内外の成績データをもとに各学年と情報交換や指導方針の共有ができました。 ・予備校等の分析会・大学説明会の参加案内を適宜行い、参加を促した。	
改善課題			
・校内でのICT化が進み、情報提供が容易になりましたが、一方で情報過多になっている部分があるので、必要な情報を精選して提供するなど工夫が必要です。 ・大学入試が多様化する中で、より生徒個々に応じた対応をしていく必要があります。また、全教員が面接指導・小論文指導などのさまざまな指導ができる能力が求められているため、研修機会を充実する必要があります。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育に関わる情報、方法の共有	・教職員の人権教育に関わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 【活動指標】 ・研修会の開催、「人権だより」の発行等 ・人権教育推進委員会の設置と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催、人権教育推進計画の策定	・「人権意識の向上に向けた校内研修」を2回行いました。(7月・2月) ・人権教育推進協議会を開催し、委員から多くの意見をいただきました。	
改善課題			
・すべての教職員の人権意識を高めるための研修をさらに充実させる必要があります。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒情報および指導方法の共有	・一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細かな支援を行います。 【活動指標】 ・学年会等での生徒情報交換の実施 ・面談時間をはじめ、随時面談を実施 ・綿密な保護者との連携、情報共有 ・より良い関係構築に向けた校内での情報共有 ・特別支援教育や教育相談にかかる教員研修の実施 ・特別支援教育推進委員会の実施	・教育相談に関する研修会(パップトーク)を8月に実施しました。 ・特別支援教育推進委員会を年2回(4月・1月)実施しました。	
改善課題			
・面談や声かけを行う際、生徒のやる気を引き出したり前向きな気持ちにしたりするにはどう働きかければよいかということを学びました。今後も生徒支援につながる有意義な研修を定期的の実施し、教職員が学び続ける必要がある。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい 職場環境づくり	・業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 25時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 20日以上	・定時退校できた教職員の割合 98%(2月末現在) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100%(2月末現在) ・60 分以内に終了した会議の割合56%(2月末現在) ・年 360 時間を超える教職員数 30人(2月末330時間超) ・月 45 時間を超える教職員の延べ人数 158人(2月末現在) ・月平均時間外在校等時間 29時間(2月末現在) ・年間休暇取得日数平均 16日(2月末現在)	
改善課題			
・SSS(スクール・サポート・スタッフ)の活用等により業務の改善を進めていますが、年 360 時間を超える教職員数、月 45 時間を超える教職員数等は昨年度と同等です。また、特定の期間に時間外労働は増加する傾向があるため、定時退校日や部活動休養日の設定等を行う等、総勤務時間を縮減する取組を継続します。			
項目	取組内容・指標	結果	備考
広聴・広報活動	◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施し、その意見を効果的に改善につなげます。 【活動指標】 ・学校関係者評価委員会の実施(年2回) ・学校関係者評価委員による授業(もしくは学校行事)参観および生徒との対談の実施(年1回) ◇ホームページ(HP)の活用、自治会との連携 ・積極的にHPを通じた情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 【活動指標】 ・HPを随時更新し、連絡や行事等の活動・成果を掲載 ・「津高校だより」の発行(年間3回程度) ・報道機関への情報提供(年間30回程度) ◇津高入門講座(8月)、学校見学会(8月)の実施 ・津高入門講座において、生徒スタッフによる本校の紹介等を通して、本校の魅力を広く伝えます。 ・学校見学会において、授業の様子や在校生が実際に活動している様子を中学生に公開し、本校の教育活動を理解してもらいます。	・学校関係者評価委員会を2回実施しました。(第1回:7月、第3回:2月) ・学校関係者評価委員による授業参観および生徒との対談を初めて実施しました。(第2回:12月) ・津高校だよりの発行 1回(2月末現在) ・HPの更新をこまめに行うことができました(100回以上)。 ・津高入門講座(8月)には中学生512名、保護者516名の参加申込がありました。 ・学校見学会(8月)には中学生658名、保護者353名の参加申込がありましたが、2日目は荒天で中止となりました。	

	【活動指標】 ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケート結果 ◇学校PR用動画、パンフレットの活用 ・生徒が主体となって学校PR用の動画およびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 【活動指標】 ・各中学校(生徒・保護者)への必要数を配布	・津高入門講座、学校見学会ともに、アンケートの結果で「受検校選択の参考になった」との回答が95%以上でした。 ・生徒から募集したデザインで学校案内、クリアファイルを作成し、入門講座、学校見学会で配布しました。 ・各中学校に学校案内を必要数配布しました。	
改善課題			
・学校見学会では、今年度から授業を自由にみてもらうスタイルに変更し、基本的にはうまくいきました。受付から教室への誘導などの課題を来年度に向けて改善します。 ・津高入門講座において、生徒が主体となって学校紹介をおこなうことは好意的に受け止められています。引き続きその形で実施が望ましいと考えますが、今年度は日程の関係もあってスタッフが途中で抜けてしまい少人数での運営となったため、次年度はより生徒が参加しやすい日程を設定する必要があります。 ・来年度は、令和8年度から始まる進学型単位制について、魅力がより伝わるようPRを工夫します。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○働きやすい職場づくりは喫緊の課題であるが、時間外勤務時間は減らないのが現状ではないか。抜本的な解決策を考えていくべきである。 ○生徒と教員が1対1で面談する機会は効果的で大切である。様々な機会に実施していくとよいと考える。 ○生徒の不登校やメンタル不調について、最悪の事態を防ぐためにも、誰かとつながっている状態を作ることが必要である。 ○高校生活入門講座などのPRを、中学生だけでなく小学生に対しても行うべきである。「中学受験をしなくても大丈夫」というメッセージを小学生の保護者に伝えていく必要がある。 ○単位制のメリットをしっかりと発信してほしい。中学校が50分×6限で、単位制が60分×5限なので、授業時間は実質同じであるということをアピールをしていく必要がある。 ○アンケート結果を分析する際、昨年と今年の1年生を比較するだけではなく、昨年の1年生が今年2年生になってどう変わっているかを分析する必要がある。 ○自転車のヘルメット着用率は、中学、高校、大学とだんだん低下していく。着用を促す指導を継続していきたい。 ○授業力向上のため互見授業は効果的であるので、すべての教職員が参加できるように時間割を工夫して積極的に実施すべきである。 ○鈴鹿・四日市地域の中学校では、土日の部活動は地域へ移行される。津市でも拠点校での実施のみとなり、結果的に平日の部活動参加者も減少が見込まれている。高校での部活動のあり方にも影響を及ぼすことが考えられる。 ○海外交流が活発になってきていることは学校の魅力向上につながる。 ○暴風雨等の警報発令時にあらかじめオンライン学習に切り替えられるような準備しておく必要がある。 ○生徒の荷物が大きく重いので、対策を考えていく必要がある。
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○授業アンケートの項目⑤「先生から授業外で自ら行う学び(家庭学習)についての提案や助言はありますか。」へ「はい」と回答した割合が 66.7%で全項目の中で最も低かったため、来年度は改善する必要がある。 ○各授業において探究的な取組を実施すること及びそれをどのように評価するかについては、今後も議論していく必要がある。 ○令和7年度より、新たな「探究」推進部と「図書部」を一体化し、「探究」図書部となることにより、探究に必要な読書活動を促し、支える必要がある。 ○図書館の利用促進については、ギャラリーの使い方も含めた図書館の活用方法を更に工夫し、図書館行事による来館者数の増加とともに貸出率のアップを目指す必要がある。 ○目指す学校の姿(グラデュエーション・ポリシー)を実現するために、「SS 探究活動」の3年間のグランドデザインについて、教職員と生徒と共通認識をはかり、より実行性を高めるとともに、育みたい資質・能力とそれらの育成に対応するコンテンツの充実が求められる。 ○校外での体験的な活動への参加者を増やすためのさらなる工夫・仕掛けや大学・企業・OB等との協力体制を強化する必要がある。 ○授業アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」を示す項目での達成目標(90%以上)が未達(77%)であることから、各教科で改善の検討を進めるとともに互見授業による相互コーチングを高める必要がある。 ○大学入試が多様化する中で、より生徒個々に応じた対応をしていく必要がある。また、全教員が面接指導・小論文指導などのさまざまな指導ができる能力が求められているため、研修機会を充実する必要がある。
学校運営についての改善策	○令和8年度入学生からの単位制導入に向けて、カリキュラムの内容、教務内規、時間割のシミュレーション、観点別評価など課題が山積しており、早急に準備していく必要がある。 ○ICTの活用で便利になると同時にセキュリティの重要性が増しており、定期的に重要情報を整理する必要がある。 ○校内でのICT化が進み、情報提供が容易になりましたが、一方で情報過多になっている部分があるので、必要な情報を精選して提供するなど工夫が必要である。 ○SSS(スクール・サポート・スタッフ)の活用等により業務の改善を進めていますが、年360時間を超える教職員数、月45時間を超える教職員数等は昨年度と同等です。また、特定の期間に時間外労働は増加する傾向があるため、定時退校日や部活動休養日の設定等を行う等、総勤務時間を縮減する取組を継続する必要がある。 ○令和8年度から始まる進学型単位制について、学校の魅力がより伝わるようPRを工夫する必要がある。